

第4回富山県地域交通活性化推進会議

日時：平成31年1月15日（火）10:30～12:00

場所：富山県民会館304号室

知事挨拶

（石井知事） 本日4回目の富山県地域交通活性化推進会議を開催したところ、皆さま、大変お忙しい中をご出席賜り、誠にありがとうございます。また石井座長には、遠路ありがとうございます。

北陸新幹線とあいの風とやま鉄道の開業により、富山県の地域交通を取り巻く環境は大きく変化したと考えております。今後もこうした情勢変化を踏まえて、県内の地域交通ネットワークを維持・確保して、活性化を進める。これにぜひ向かいたいと思っており、3年前の平成28年3月に、富山県の地域交通ビジョンを策定し、さまざまな施策を進めさせていただいております。

また、このビジョンのフォローアップを行いながら、総合的な地域公共交通体系の構築に向けて取り組んでいくことを目的にして、この会議を設置しました。昨年度、平成29年度ですが、二つの小委員会を設けまして、持続可能な地域公共交通の確立については金岡委員に小委員長となっただき、また、交通機関相互の乗継利便性の向上については日吉委員に小委員長になっていただき、それぞれ議論していただきました。

今年度はバス事業者の方々や、市町村の利用促進への取組みを推進する補助制度の創設、また県内全域の民営と公営のバスを網羅したバスロケーションシステムの導入を推進するなど、県の具体的な政策として、それぞれ民間等の皆さんと協力しながら進めております。

後ほど説明いたしますが、こうした努力もあり、本県の鉄軌道、またバス事業の年間利用者数は、平成25年度に比べると、平成29年度までに11.5%、約490万人が増加したということです。全体として人口減少といった中で考えると、相当努力していることになると思います。ただ、こうした効果を一過性にしないで持続させる、また、さらなる利便性向上等につなげていく必要があると思っております。

今日は地域交通ビジョンの取組み状況と、全国のモデルになると考えておりますバスロケーションシステム等々について、その進捗状況を説明させていただくことにしております。委員の皆さまには、それぞれの立場で忌憚のないご意見を頂いて、さらに富山県の地域公共交通の活性化が図られるよう、よろしくお願いします。

石井座長挨拶

（石井座長） 皆さま、おはようございます。ご紹介いただいた東洋大学の石井晴夫と申します。座長を仰せつかりました。前回に続きまして、どうぞよろしくお願い申し上げます。

先般、ご存じのように平成31年度予算が公表されました。それを見ると、各省庁とも国土強靱化計画に基づき、大変予算が増額しております。全体の一般会計の予算では101兆円を超える、初めて100兆円を超える予算が計上されており、非常に国土強靱化に向けた政府の

取組みの強さが、今回の予算編成に表れていると思っております。

特に国土交通省関係、そしてまた経済産業省、厚生労働省をはじめ、そういう事業官庁、事業を所管しているところは非常に増えており、経済産業省の場合にはエネルギー関係も倍増しております。ご存じのように人々の足回りである交通等、そしてエネルギーと、それから上・下水道、これが災害時に一番重要であることはまぎれもない事実でございます。

今回、政府は非常にそこを重点的に強靱化の目玉として予算編成を組んでおります。私もいろいろと政府に関係しています。特に水道の方では昨年、12月6日に衆参で最終的に水道法の改正法案が通り、その前には参議院の厚生労働委員会で水道法改正法案に関する参考人質疑が行われ、私は政府側の立場で意見を陳述しました。

強靱化に向けた取組みをいろいろな形でこれから本格的に進めなければいけません。これから都道府県も条例等の改正に向けていろいろな取組みが必要になってくるものと思います。市町村も全く同じだと思います。

そういう中で県の主導というのは、各省庁とも非常に重要になってきます。県が市町村も一緒に入れた広域化、あるいは広域連携、ネットワーク化などを進めなければならないので、富山県の地域交通活性化推進会議の成果を、ビジョンに基づく成果を、ぜひ全国のモデルケースとして広げていきたいと思っております。

ですから、代替的な高速交通ネットワークの整備による都市間の交流、そして都市内や域内のモビリティの確保など、そういう大きな、国際も含めた中で進めていくということで、石井知事さんの政策がいよいよこれから生かされてくると思っております。

とりわけ、北陸新幹線開通以降、わが国へのインバウンド客が昨年、何と3000万人を超えました。今、政府では4000万人に向けたさまざまな取組みをやっています。かなり北陸にインバウンドのお客さんがたくさん来ていただいているということで、今日はバス・ロケーションシステムの話もありますが、本県のこういう新しいいろいろな試みが、これから海外にも情報発信されて生かされてくると思っております。

富山県の地域活性化の推進が全国から注目されていますので、ぜひ委員の皆さま方のさらなるご支援、ご協力を賜りながら素晴らしいものにし、そして県民の皆さまはもちろんですが、海外から来られる皆さんにも喜んでもらえる富山県になることを推進していただければ大変ありがたいと思います。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

議事 (1)「富山県地域交通ビジョン」の取組みの進捗状況と課題について

(2) バス情報提供及びバス利用促進の取組みについて

<事務局より説明(略)>

(石井座長) どうもありがとうございました。詳細なご説明を今、頂きました。

このビジョンの方では、平成28年3月に皆さまのご協力を頂きながら審議を進め、そしてまた策定されました。それに基づきまして、先ほど、富山県地域交通ビジョンの目標・進捗状況について詳細なご説明を頂きました。

資料 1-1 では、何と平成 25 年から平成 29 年に関しては、軌道で 14.8%の増加、鉄道では 12.9%の増加、バスも 5%の増加ということで、これは全国的に大変注目される数値です。従って、いかに各県、市町村、そしてまた事業者、利用者の皆さん、県民の皆さんが本当にこの公共交通の利用促進、またその重要性について認識を頂いていると思っております。

今回、いろいろなビジョンの進捗についてご説明いただきましたが、今後さらなる持続可能な地域公共交通をしっかりと維持、存続していくという大きなミッションがございますので、委員の皆さまからバスの利用促進に向けた取組みやバスロケーションシステム、そしてまた関連するさまざまな取組みなどについて、ご意見やご質問を賜れればと思っております。

それでは委員の皆さま、どなたからでも結構ですので、ご発言を賜りたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、いつも口火を切っていただいて大変恐縮でございますが、金岡委員からお願いできますでしょうか。よろしくお願いいたします。

○意見交換

(金岡委員) 2 年前にこの推進会議が発足し、そして私は小委員長を務めさせていただいています。その立場から申し上げますと、2 年前に県内各市町村、そして各交通事業者、たくさんいらっしゃる中で、富山県が音頭を取って、今度こそ、真剣にと言ったら変ですが、地域交通の問題に向き合おうという雰囲気、この 2 年間で非常に強く醸成されたものと思います。その結果、これだけ大きな、今、座長からお話が合った、特に軌道、鉄道、バス等の利用者が増えてきた。大変素晴らしいことだと思います。

一方、私は公安委員長を今務めておりますので、その立場で申し上げますと、昨年、残念ながら、交通事故の件数そのものは減っているのですが、交通事故死者数は増えています。その 6 割が高齢者です。単に免許を返納するだけではなくて、やはりこの 2 次交通を活性化して、より利便性を高めていくことが地域の存続、そしてまたインバウンド対応ということで、大事だということを改めて感じている次第です。

そして 3 番目に、今度は経営という立場で考えますと、これだけ利用者が増えたのは素晴らしいことなのですが、一方、同時に持続可能性ということを考えると、そういうことはいないと思いますが、ものすごく補助金が増えた結果、ここで利用者が増えたということだと、これは持続可能性があまりないわけです。

富山県だけではなくて、県、市町村全て合わせた補助金の総額はどういう推移をしているのか。恐らく感覚的には、それがさほど増えていなくて、これだけの増加が達成された、皆さん、知恵を使っていたということではないかと思います。その点の検証も併せて今後進めていければ、より良い形の持続可能な 2 次交通の在り方、富山県による地域交通活性化の検討がより進んでいくと思います。以上です。

(石井座長) どうもありがとうございました。ご指摘のとおりだと思います。

事務局の資料にもございましたが、前回から新たな、県の補助制度というものが改正され、そして補助金そのものは、また後で事務局、あるいは知事さんからもお話があると思いますが、全体的なところでは横ばいだと思います。

そういう中で、これだけ県、あるいは市町村、事業者の皆さんの取組みで頑張っていたような状況ですので、また後で事務局からも話を賜りたいと思います。金岡委員さんは持続可能な地域公共交通の確立小委員会の委員長さんとして大変ご尽力を頂いております。ありがとうございます。

それでは、同時に交通機関相互の乗継利便性の向上小委員会の委員長である、あいの風とやま鉄道の日吉委員、よろしくお願いします。

(日吉委員) あいの風とやま鉄道の日吉です。まずバスロケーションシステムですが、これはいわゆる公共交通の利用者にとって、バスなり列車なりが遅れているといったときに、どれくらい遅れているのかというのはなかなか分からないというのが、大体利用者にとって不満の原因の一つということになるので、このバスロケーションシステムが出来上がったら大変大きな効果があるのではないかとということで、大変期待しているところです。このバスロケーションシステムができた段階で、私どもの方でもあいトレという、あいの風の列車の遅延情報等が出ている、スマホでも分かる情報システムがありますので、ぜひこのバスロケーションシステムとうちのあいトレをリンクを張るというような形で使いやすい方法で進めていただけたら幸いです。

それと併せて一般的な話もさせていただくと、今年の4月から11月までのデータですが、当社線の利用者数は1.7%増加ということになっております。利用している方々が増えた原因は、まず一つは高岡やぶなみで新駅ができたことがあります。それから、富山駅など駅周辺の、いわゆる市の方で整備等が中心になりますが、開発が進んできているというようなことがあって、そういう利用者が増えている。もちろん私どもの方で利便性向上のためにダイヤを見直す効果も出ているというようなことであろうと思います。今後とも沿線の市町村の皆さんと連携しながら、周辺の開発というものについて工夫していきたいと思っております。

それと、これはPRですが、今度、4月6日から観光列車で、一万三千尺物語というものをスタートさせるわけですが、4月の分の予約を1月10日から開始しました。3カ月前ということですが。現段階では4月6日の1番電車については売り切れの状態になって、大変順調に進んでいます。今後とも県の観光の一つのアイテムとしてまた努力していきたいと思っております。

それからダイヤ改正で、弊社の詳細ダイヤですが、今度の1月18日ぐらいには各市町村にはまたご連絡したいと思っております。また、1月23日を目途にこのようにするという形で、なるべく早くダイヤの情報を出して、バスとの連携を進めていきたいと思っております。以上です。

(石井座長) ありがとうございます。さまざまな取組みをしていただき、本当に感謝申し上げます。それでは先にJR西日本の大路委員に、またいろいろ、さまざまな取組みをしていただいているので、よろしくお願いします。

(大路委員) JR西日本の大路です。まず、日頃から高山線、あるいは城端・氷見線、それから北陸新幹線のご利用促進にご協力いただきましてどうもありがとうございます。

私どもは北陸新幹線を運営しているということで、広域交通ということで、少し申し上げ

たいと思います。

このビジョンの中でも北陸新幹線、あるいは飛行機とのネットワークの充実、あるいは広域周遊観光ルート充実の方向性が出ております。北陸新幹線は今度3月14日で丸4年で、5年目に入ることになります。

そういった北陸新幹線5周年ということもキーワードの一つとして、2019年度は改めて北陸の魅力をしっかりとアピールしていき、4年後に敦賀の開業が控えているので、それにちなんでいきたいと思っております。

ただ、新幹線はあくまで移動の手段ですので、目的にはなり得ないわけです。そういう意味で言うと観光素材の磨き上げ、あるいは情報発信ということが非常に重要だと思っております。

今後とも地域の皆さんと一緒に、今、「Japanese Beauty Hokuriku」の売り込みなどをやっていきますけれども、連携を進めさせていただきたいと思っております。

あと敦賀まで開業いたしますと、富山、金沢、福井が大体20分間隔で結ばれることになります。そういったことで、例えば北陸三都物語みたいな言い方もあるかもしれませんが、そういったことで新たなルート、あるいは新たなつながりということをご提案申し上げる。

そういうようなことも考えて、インバウンドのお客さまの取り込みも含めて、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。ぜひ5周年ということもキーワードの一つにして取組みを進めたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いしたいと思います。

(石井座長) ありがとうございます。引き続きよろしくお願い申し上げます。それでは先に事務局から、中川委員より、ご発言というか、メッセージを頂いておりますので、そこを先にご紹介いただけますか。

(事務局) 皆さまのお手元に中川委員よりということで、コメントをお配りしてあります。こちらに書いてあるとおり、いわゆるまちのバス、軌道ともに利用者が増加しているということについての評価を頂いているということと、今後、ICカードの導入とか、ディスプレイによる運行情報の提供などさまざまな施策の効果ということで、引き続き利用者からも期待できるのではないかとといったようなこと。また、全国に先駆けて、全県でバスの情報提供を実施されることも大変素晴らしいということでご意見を頂いたところです。以上、ご意見を披露させていただきました。

(石井座長) ありがとうございます。それでは、引き続き万葉線の水上委員、よろしくお願い致します。

(水上委員) 万葉線の水上です。よろしくお願い致します。関係の皆さまには弊社の運行に際しまして日頃からご支援いただいていることを、この場を借りて御礼申し上げます。

弊社は利用者の利便性の向上ということでいろいろな取組みをしております。最近では金曜日の深夜便も新たに運行を始めております。今般、サイクルトラムということで、仮称ですが、準備を進めているところであります。今、お手元に資料を配っております。この資料に基づいて説明させていただきます。

これまでも折りたたんだ形は手荷物ということで、弊社ではお乗りいただけたのですが、現状のままお乗りいただけるようにならないかということで、これまで、実証実験をしてきたところです。その結果、4月から低床車両を利用して取り組むこととしました。

取り扱いの期間については4月から11月末ということです。また時間につきましては、平日は9時から15時、土日祝日に関しては8時から17時です。

3番目、使用車両ですが、アイトラムという低床車両を使って、ホームの後ろの方の身障者スペースを使いたいと思っています。事前の予約をお願いしたいと考えています。

5番目の乗降可能な駅ですが、8カ所を予定しています。後ろの方に付けてありますが、一般のお客さまと同じ入り口からということになりますと、少し混雑といいますか、運用上難しいので、後ろの逆の方から入ることが可能な停留所を考えています。持ち込み料金については、当面は無料で考えています。

なお、後ろの方、2枚目には、トラム、ルート、それからこの前、実験しましたが、自転車に乗れる場所です。それから3枚目には、地図で、停車可能な駅を緑色で示していますが、そういったところを考えております。

こういった取組みをして、サイクルトラムということで4月から運行していきたいと思っています。

ただ、この場をお借りして実は2点ほど、困っていることがあり、まず1点目ですが、先ほど金岡委員からもありましたが、お客さまのマナーではなく自動車のマナーです。弊社、あるいはバスの民間も一緒なのですが、自動車の道路と同じところを走っているのが、交通安全運動期間になりますと、横断歩道とかいろいろな心配りしていただけるのですが、実は私も自動車の運転免許を取ったときに、公共機関のバスとか電車が止まれば止まるということを知っているのですが、実際はほとんど止まりません。そういったことで非常にお客さまが乗降の際に危険な状況になります。改めて、これは警察の方の仕事とは思いますが、講習の際には初心に返って、バスなり路面電車の通行、運行の際には基本に立ち返っていただく指導をしていただけないかなというのが一つあります。

それから2点目です。これは県さんへのお願いになりますが、実はWi-Fiというのが最近あります。私どもの車両も今度Wi-Fiを入れていこうと思っていますが、Wi-Fiを入れる際に、Wi-Fiは安い機械です。ところがこれは何が安いかというと、使用料が1万ぐらい掛かるということです。バス事業者は観光バスを中心にWi-Fiを入れておられるとお聞きしていますが、こういう定時制のものに入れていくことになるとういうことになるのかなということで、取りあえず1車両、ドラえもんトラムで始めていこうかと思っています。こういったものについて、また何かご支援を賜る方法がないかなということで、今後協議させていただきたいと思っています。

以上です。

(石井座長) ありがとうございます。さまざまな取組み、万葉線のサイクルトラムという非常に斬新な取組みで、素晴らしいと思います。ぜひこれも全国に先駆けて、トラムでは初めてと思いますので、大いにPRしていただければと思います。最後の2点については、県の方からも取組みをぜひよろしくお願いします。

これは富山ライトレールの方も同じだと思いますので、交通マナー、自動車やマイカーの交通マナーの向上というようにところもよろしくお願いしたいと思います。

もう一つ、事業者の皆さんにお聞きしてから、知事さんのお話を賜りたいと思います。富山地鉄さんの中田委員の代理で、今日は川村副部長にご出席いただいておりますので、よろしくお願いします。

(中田委員代理(川村副部長)) 富山地方鉄道の中田の代理の川村と申します。よろしくお願いします。私からは、先ほどの資料の中にもありましたが、公共交通の利用については子どものところからの利用が重要だという話に関連した取り組みとして、弊社と沿線自治体さんと取り組んでいる、親子でお出かけ事業と、こどもの日キャンペーンについてお話しさせていただきますと思います。

平成28年度からゴールデンウィーク中の5月3日から5日にかけて小学生の運賃を無料にする取組を他の公共交通機関と一緒に実施しております。併せて、夏休み期間につきましても、無料のチケット付きのチラシを教育委員会を通して小学校に配布して、これを利用していただくという取組を行っています。利用者数は、こどもの日キャンペーンで6000人から8000人の小学生の利用があり、夏休みの期間のキャンペーンでも同数の利用がありました。また、両事業は小学生に乗っていただくことと併せまして、親御さんへの利用啓発にも繋がると考えております。

また利用啓発の目的で共通する取り組みとして、沿線のご自宅を回って利用促進をPRする取組を、併せて28年度から行っています。主に富山市内のバスの運行本数が多い地区で、「こんなに便利ですよ」とアピールしており、回中でいろいろご指摘を頂いたりするので、生の声を聞かせていただくという意味でもいい機会になっております。

もう1点ですが、先ほどの資料の説明の中でも、訪日旅行者の利用が増えているというご説明がありましたが、弊社の外国人旅行者対応の取り組みをご紹介します。まずは弊社のホームページでは、英語、韓国語、中国語対応のページを開設していること、今後、富山大学と連携して、座席予約サービスの外国語版を計画しています。

また、訪日旅行者の乗車時や、そうした方が事前にコースを調べる際により分かりやすくするという目的で、駅ナンバリングを計画しております。

鉄道線につきましては、アルファベット1文字Tに番号2桁で、01から70番という番号を付与して、併せて本線、立山線、不二越・上滝線を色分けするような形で、駅名版であるとか、運賃表示機、車内放送の中で、そういった駅ナンバリングを追加していきたいと思っています。鉄道線の開始時期については、2019年3月の、稲荷町ー不二越間の新駅開業の時期に合わせてナンバリングを行いたいと考えております。

軌道線については、先ほどTといいましたが、アルファベットのCに、南富山を基点とした01から、今後、南北接続が行われますライトレール線の終点まで39番という番号で、車内放送などにナンバリングを付けていきたいと考えています。

(石井座長) よろしいですか。ありがとうございました。それでは時間の関係もあるので、知事さんのスケジュールの関係で、途中でございますが、石井知事から今までのご感想を含

めてお話を賜りたいと思います。よろしくお願いします。

(石井知事) それぞれ貴重なご意見をありがとうございました。先ほど金岡委員さんから、軌道やバスなどの利用率が上がっているのはいいことだけれども、補助金がどんどん増えてそういうことになっていないのか、補助金が増えていては持続可能なシステムと言えないというお話があり、全くそのとおりだと思います。

先ほど事務方が説明した資料3の2ページ目をご覧くださいますと、(4)として、県バス運行補助の対象系統数、補助額の推移というものがあります。これを見ていただくと、棒グラフの一番上にある数字が補助金の額です。そして、その下に折れ線グラフがあります。例えば平成29年に227。これはバスの系統の数です。棒グラフの上にある235が補助金の額です。これを単純に割ると、1系統当たり104万円ということです。

少しさかのぼって、平成28年はまだ系統数が少なかったので、1系統で125万円。それからもう少しさかのぼり、平成24年、平成25年ごろは、1系統130万円ぐらいだったのです。

系統数は増えているけれども、補助金はさほど増えていなくて、1系統当たりになると、むしろ補助金額は減っているということです。ですから、金岡委員さんの言葉を借りれば、持続可能な仕組みになりつつあると。むしろ、非常に効率が上がってきているのではないかと。思って、実は私も非常に喜んでいて次第です。

それから日吉委員さんから、高岡やぶなみ駅の話やダイヤ改正でのあいの風とやま鉄道の努力及び観光列車の話があり、頑張っていただいていると思います。

全般に、伸びは多いのですが、私の手元にある資料を見ると、例えば地鉄さんは富山駅と滑川とか、富山駅と山田村とか、あるいは笹津春日温泉とか、いろいろと路線を見直しをされて工夫されたのかもしれませんが、この1年間でも3割ぐらいお客さんが増えている路線もあります。これは、いろいろな事情があると思いますが、大変努力されているのではないかと。思って、敬意を表したいと思います。

また万葉線のサイクルトラムの取組みは、ありがたいと思います。県内でも随分サイクリストが増えていますし、外国からも、実は富山湾でサイクリングをやりたいと言ってくる人もいるわけですので、こういう取組みは大変ありがたいと思います。

またWi-Fiの話が出ましたが、これは一度、情報通信事業者の皆さんとお話ししなければいけないかもしれませんが、かなり全国的な課題だと思うので、よく勉強していきたいと思っています。

また同じ地鉄さんでも、こどもの日にお子さんは無料にしてくださるとか、いろいろご努力されている点。それから外国語表示、それからナンバリング。これは今度、中央病院のそばに4年制の看護大学、県立大学の看護学部をスタートさせるのに合わせて新駅設置を進めていただいているので、そうした前向きな取組みについては大変ありがたいと思っています。

あとJR西日本さんからお話がありましたけれども、間もなく新幹線開業で丸4年ということがあります。また、あと4年たつと敦賀が開業します。これは大阪方面の利便性が非常に良くなることももちろんですが、気を付けなければいけないのは、それだけ注目を浴びる場所が、例えば福井県などで増えてきて、気を付けないと、通過する人も多くなる恐れもあるわけです。

ここで新幹線開業効果をさらに持続、発展させると同時に、4年後の敦賀開業を見据えて、

今からいろいろな対策を講じなければいけない。その一環としての地域交通であると思っており、またそういう視点からもいろいろな提案なり、動いていただけるとありがたいと思っています。

本当は皆さまのお話を聞きたいのですが、都合がありここで失礼いたします。どうもありがとうございました。

(石井座長) どうもありがとうございました。時間の関係もあるので、知事さんはこれでご退席になります。ありがとうございました。

それでは続いて、もう少し事業者の皆さまからお話を賜って、そして皆さまから全体討議に進めたいと思います。それでは加越能バスの山崎委員、よろしくお願いします。

(山崎委員) 加越能バスの山崎と申します。日頃は、当社の事業に多大なるご配慮、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。さてこの地域交通ビジョン資料 1-1 で、バスの利用者が 5%増えているという、数字がございしますが、県西部を担当して当社では、このような数字ではございません。ほぼ富山地鉄さん、もしくは公営バスの皆さんが数字を押し上げられているのかなという率直な感想でございます。

一方では、広域観光資料にありますように、昨年の 10 月から、高岡―高山線の運行を始めております。高山にたくさんの観光客の方がいらっしゃるということで、少しでも高岡に来ていただければなということで運行を始めております。利用人員は、土日運行 1 往復ということもあり、10 月以降、累計で 50 人程であります。ただし 2 月に入りましたら、中国の春節という時期に入りますので、少しでも利用者の方が増えていただければありがたいと思っています。

取組み状況の中のバスロケーションシステムについては、当社の運行本数は必ずしも多いわけではございません。そのような現状の中冬場にバス停で待っていただいている高校生の方、一般のお客様のことを考えると、バスの位置情報や遅れ具合がわかる情報システムについては積極的に整備をしていただけるとありがたいと思っています。以上です。

(石井座長) ありがとうございました。それでは続いて立山黒部貫光の永崎委員、よろしくお願いします。

(永崎委員) 私どもは、お隣の黒部峡谷鉄道さんと一緒ですが、観光地の観光事業者ということで参加させていただいています。

今回いろいろの取組みの進捗状況をご説明いただき、特に私どもは、立山黒部アルペンルートだけでお客さまがおいでになるわけではなくて、やはり最近は広域観光として北陸関係の観光地、それからもう一つは域内観光の富山県内の観光地さんと連携することが非常に大事になってきています。

特に訪日関係のお客さまは、立山黒部アルペンルートと五箇山とか、あるいは氷見とか、あるいは砺波のチューリップという形で連携されているお客さまが非常に増えてきておりますので、このバスロケーションシステムと乗換案内等を使い、お客さまに情報提供することは非常に大事なことになってきていると思います。

そういう意味では、今、県と取り組んでいらっしゃるこのようなことが、将来的には多くのお客さまの利便性を図ることにつながってくるのではないかと考えております。非常に前向きな、ありがたいことではないかと考えております。

(石井座長) ありがとうございます。続いて黒部峡谷鉄道、小橋委員。

(小橋委員) バス情報システムについては、地域の方だけではなくて、新たにこの地域に来られる観光客の方にも、大変便利なものになるということとを考えておりまして、しっかりとPRをしていきたいと考えています。

それから弊社は、どちらかというと観光鉄道という、観光の方をやっておりますので、まずお客さんに来ていただくために、やはりその魅力化にこれからしっかり頑張っていかなければいけないと考えております。

それと石井先生も少し触れられましたが、海外の方が非常に増えてきているので、今度、また東京オリンピックもございますので、われわれの会社でも駅の構内放送や車内の放送についても、多言語化について頑張って整備していきたいと考えております。以上です。

(石井座長) どうもありがとうございました。それでは続いて、富山ライトレールの村上委員、よろしくお願いします。

(村上委員) 富山ライトレールを普段ご利用いただきありがとうございます。私どもとして、ご存じかもしれませんが、来年の、多分3月末頃になると思いますが、富山駅高架下で南北が接続するということで、富山地方鉄道さんと一体的に運用ができる。運行は基本的には地鉄さんが主としてやられるわけですが、そのことによって新たな利用客の拡大、当然今までの方もそうですけども、今まで乗り換えで余分なお金がかかっていたものが、一気に行けるというところで、お客さんが増えるのは間違いないだろうと考えております。

今現在の、例えばライトレールでいえば1割以上の方々が増えてこられるのではないかなという、そういう予想も立てております。そういう中で、観光客を含め、いろいろな方々の利用促進、PRも含めてやっていきたいと。特に富山駅周辺は、駅北辺りは、市なり県のいろいろな観光施設なりそういうものが増えてきております。かつ、ライトレールの駅についても、例えば今現在、駅北という駅がありますが、それが高架下に入ることで、富山駅とインテック前との距離がちょっと長くなるので、そのあたり何とかならないかというような、いろいろな検討をしています。これは市さんがいろいろやっているところでございますけれども、そういうところも含めてこれから魅力アップに努めていきたいと考えております。

(石井座長) ありがとうございました。それでは長尾先生、大変お待たせして申し訳ございません。全体を通じてよろしくお願いします。

(長尾委員) 今まで各委員の皆さまがコメントされましたが、進捗状況を見ますと、素晴らしい成果が出てきています。これからは利用客数、利用頻度をさらにどう増やしていくかということが提言の基本になりますが、特に利用頻度の増加において、この資料の中にもあ

りましたが、時間の短縮が重要な課題です。

出発時間が、先ほど 1 時間を超えるものが 40 本あったのが、現在は 29 本という。このような努力は、これからもっと使いやすい頻度にしていくべきだと思います。こういう使いやすさが、もっともっと高まってくれば、固定客の皆さんであっても、もっと利用者数が増えていくと推測されるわけです。

それで、県内で 2〜3 の駅が取り組んでいるかと思うのですが、駅自体に、販売店機能というか、物産品も売っているという。やはり駅内、駅周辺の利用客に関して、あるいは観光客に対して富山の特産品とか、やはりそういうものを売るアピール、日常生活的な品ぞろえを駅で考えていったらどうかと思います。

その様な事例は全国の動きの中で成功例もたくさん出てきているので、同じ駅員が空いた時間を利用して、レジ機能を担当したり、そのような機能を取り入れていけば、駅自体の魅力も地域においてどんどん増えていくのではないかと思います。

ハード的なシステムの改善はもちろん必要なことですが、駅を利用するという意味の魅力というか、付加価値をそれ以外にどうつくっていくかということも同時に考えていくべきだと思います。

あとは 2020 年の外国人 4000 万人とか 6000 万人とか、東京オリンピックを目指して来ると言われていますので、これに対する、先ほども意見がありましたけど、多言語表記とか Wi-Fi の導入とか、当たり前の機能はどんどん今のうちに、この 2 年間で徹底して優先順位を上げて、外国人であっても一人で目的地へ行ける、そういうような案内表記をやっていただければと思います。以上です。

(石井座長) どうもありがとうございました。大変重要なご指摘を頂きました。駅の魅力を高めていくことは公共交通にとって何よりも大事であると。外国人が一人でも目的地へ行ける、これもまた素晴らしいことで、バスロケーションシステムの重要性もさらに増してくるのではないかと考えています。

それではどうぞ、時間の許す限り、委員の皆さまからご意見を賜りたいと思います。いかがでしょうか。バス協会はいかがですか。全体的な、県内のバスでも、地域間の格差の話がございましたが、小竹委員、よろしくお願いします。

(小竹委員) バス協会です。資料 1-1 に示されたとおり、かつてはかなりのバスが減少傾向ということではありますが、最近では 5% の増加ということで、少し光が見えてきたのかなと思っていますところでは。

あと資料 3 の方で、富山県の路線バスの現状についてという資料があります。輸送人員も実車走行キロも営業収入も、そしてまた県バス運行補助も全て増えております。しかし、各補助対象路線の収支率がほぼ横ばいということで、収支率がなかなか上向かないのが路線バスの実態かなと思っていますところでは。

われわれ民間の事業者とすれば、やはり収支率をアップさせるべく努力、今後も県さん等のご意見を頂きながら、民間事業者としても収支率を上げていく努力をせねばならないと、こう思っているところです。以上です。

(石井座長) ありがとうございます。それではタクシーの方の現状も含めて、清澤委員、よろしくお願いします。

(清澤委員) タクシー協会です。この利用環境は、大量輸送機関のデーターは伸びていくというような数値が出てきていますが、タクシー事業としては、依然として減少傾向が続いているかなと。

また一方では、今、自治体さんの域内コミュニティというか、そちらの方で、デマンドで活用していただき、いろいろご相談を受けながら、ともに手を携えてやってきているところですが、そちらの方での活用というところで、このバスの乗り合い需要の増加傾向にも一定の貢献をしているのかなというふうに思われます。

こういった中で、タクシー事業につきましては、各自治体さんからデマンド、乗り合いタクシーというご相談も受けていたりするわけですが、タクシー事業の中で運転手がとにかく今減少傾向が非常に大きいというところもあります。こういった相反するものがある中で、なかなかお受けするのも困難なところ、地域もありまして、非常に事業者としてジレンマを抱えているところです。

(石井座長) ありがとうございます。タクシーもバスもドライバー不足、運転手確保が最大の課題だと思います。もうちょっとお話を賜りたいと思います。高等学校 PTA 連合会の吉澤委員、よろしくお願いします。

(吉澤委員) 今回初めて参加させていただいて、皆さんといろいろな事業者さんの取組みを聞かせていただいて、まず PTA の代表としては、やはり子どもたちが日頃、地域交通を、生活の一部として登校や通学等に安心・安全に利用させていただいていると思っています。

先ほどのロケーションの話ではありませんが、そういうことの充実や利便性の充実を図っていただけるということは、子どもたちが安心して通えるということにつながっていくのだなと思って、皆さんの取組みの話を聞かせていただいて、保護者としてはほっとしております。

あともう 1 点、今度は利用者としての立場で。先ほど新幹線の話がありました。開通して、もうこれでだいぶ利用もさせていただいているのですが、先ほど交通の、やはり乗り物は手段で、目的がいろいろある、やはりそこへ行きたいというところの目的の手段として使われることが多いという話でした。

実は私は保育所に勤務しており、新幹線が開通してから新幹線に対する子どもたちの反応で、子どもたちが、新幹線を身近に感じるようになったと思いました。その影響を受けて、保護者さんがいろいろ、今まで、例えば東京まで行くのに、小さい子ども連れだと自家用車で行っていた、荷物の関係とかで車で行くことが多かったのだけど、新幹線が開通して身近になったことで、子どもも乗ってみたい、親も乗せてみたい。乗り換えがなくなったことで、もしかしたら新幹線で行けるかもしれないという感じで、やはり観光の手段としても、こちらから出ていく手段としても、そういう交通機関を利用して、マイカーでなくてもいろいろなところに行けるのではないかと感じています。

もう少し年代が上の方になると、自分の親を連れて、利便性が良くなった新幹線に乗せて

みたいという思いもあるのではないのでしょうか。そう考えると新幹線は移動の手段だけではなくそれに乗りたいという目的としても十分役割は果たしておられるのではないかと思います。以上です。

(石井座長) どうもありがとうございました。それでは航空の方を代表して、白井委員、よろしくお願いします。

(白井委員) 私は2012年に単身赴任でこちらに赴任いたしまして、2017年10月で、定年退職とともにこちらに移住いたしまして、家族とともに移住したわけです。

いろいろその関係でもお世話になっておりますけれども、まず来たときから見たら本当に、新幹線が開業するということで、航空もなくなっただけとはいけないという意味で私たちの活動もあったわけですが、非常に各施設、それから、いろいろな交通事業者の皆さんのご努力かと思いますが、格段に良くなりました。

本当に行くところ行くところ、「えっ」ということが大変多かったのですが、さすがに今は新幹線があつてということです。さらにオリンピックというようなことに向けて、何となく富山のイメージとしましては、ある程度行ったら、「うん、もうこれでいいのかな」という感じが否めないというところは、正直思いましたので、引き続き私たちも頑張っただけじゃない。

例えば交通のICカード一つにしても、PASMOやSuicaは使えません。使えません放送ばかりが目立ってしまって、使えるためには、なぜ使えないのだろうということがあつて。ecomycaは私も持っておりますけれども、そういうことの、なぜ駄目なのということは、やはりインバウンドを受け入れる中では、東京のお客さま、さらには大阪のお客さまは今後も増えると思いますので、ぜひそういう努力も併せてしていただければ非常にいいのかなというふうに思います。

それから、あと一つ、皆さまに航空の状況は新聞等々でご存じで、横ばいですよみたいなところもあるかと思うのですが、実は2017年の9月から2018年の8月まで、この1年間の富山空港を使って国際線に乗り継ぐお客さまは、国内の53空港中第1位なのです。そのところは富山空港は全然変わりません。桁は100万都市とかいろいろなところもありますけれども、全国の中で、例えばその期間の富山は21万8424名のお客さまの中で2万2402名ということで、ここで荷物を預け、成田で乗り継いで、成田経由で海外に行かれるとか、ビジネスもレジャーのお客さまもどちらも減ってはいない。

そして、きときとバスとか相乗りタクシーとかいろいろやっていただいて、それなりにいいのですけれど、前日の5時までに予約しないと駄目だとか、当日来た人たちがこちら方面ということで乗っていく。

それから空港でよく聞かれるのは、高岡まで行きたいのだけど、やはり駅まで行かないといけないということで、先ほどから皆さんのご意見を聞いていて、運転手さんの数とか、そういうことを増やすというのはなかなか難しいとは思いますが、例えばコミュニティバスを違う形で空港にも回していただいて、空港にあるお店の活性化とか、新しい商品を空港に置くとか、空港の方も忘れずに。

それで非常時は、私は関西におりましたので、阪神大震災のときにもいろいろなことが起

こったときの、急な路線とか、空港があればできるということもありますので、新幹線と併せて空港の発展ということも引き続きお願いできたらなと思います。

(石井座長) どうもありがとうございました。せっかくの機会ですので一言だけ。時間の関係もありますので、大学生の千葉委員に一言ご感想を賜ればと思います。よろしくお願いします。

(千葉委員) 富山大学の千葉です。すごい貴重な機会にすることができてとてもうれしいです。個人的にはバスをアルバイトで、大学から呉羽の方に向かうときに利用しているのですが、時間が分からなかったり、いろいろな経路があるので、バスロケーションのサービスが早く始まるのが楽しみです。とてもうれしいです。

(石井座長) ありがとうございました。それでは、もう時間が迫ってまいりましたので、全体を通じて最後に高木副座長からお話を賜りたいと思います。

(高木副座長) 全体的な感想として、富山県はコンパクトシティー、コンパクトな県でございますので、2次交通、恐らく新潟県や福井県とか、ああいう広域な県に比べると特段に2次交通のアクセスも県内全域にコントロールされているのだろーと思います。数字もそれを示しているということです。

ただ、問題は、ちょっと増えたからいいというものでは全くなくて、各委員がおっしゃるように、たとえば富山空港からのアクセスの問題とか、高山へのアクセスなど各市町村がバラバラに、それぞれの思いでやっているというところが、まだまだ改善の余地かなと、思っております。

やはり持続可能な2次交通をつくるという意味では、こうした一つ一つの取組みが極めて重要と。今、最後に富山の千葉さんから話がありましたが、私もバスのロケーションシステムは大変期待しております。定時の時間だけ書いてあって、いつ来るか分かりません。

うちはバス停から3分なので、これがいつ来るか分かるようになれば、10分前ぐらいに行けば良くなるので、早くやっていただくことを大変期待しております。

また、自転車を電車に載せるという話は、他の電鉄もぜひ進めていただきたいと思います。

私はいつも地鉄の不二越線をくぐってくるのですが、ほとんどガラガラです。ならばあそこを、1台分とは言わないけど、せいぜい半分、自転車を載せればいいではないか。

やはりそういう機運を盛り上げながら、無駄な空気を運んでも誰のためにもならないので、やっていけば、もっともったいいのではないかと。

そういう面では万葉線のこれは非常に面白いので、原則は2日前だけど、前日、もしくは当日でも空いていれば載せるぐらいの弾力的な運営をぜひしていただきたいと。

空いていれば載せると。ただし2日前が原則ですよというように、もっともった弾力的に運営していけば、まだまだ富山県の2次交通は発展する余地がある、伸びしろがある。そういうことが持続可能な2次交通につながると思います。

今日ご参会のお一人お一人の、やはりそれぞれの工夫、努力を期待したいと思います。

(石井座長) どうもありがとうございました。バスロケーションシステム、特に富山県内では、冬期は待ち時間等々の関係もあって大変だと思います。

富山県の場合には全県的な取組みなのですが、一つの事例として長野県に坂城町という町があります。その町では、町長さんの非常に強い思いで、ある一定の年齢以上の方には、簡易型の端末機を全員に無償配布して、路線バスのルート内にフリー乗降区間というものを広域的に設けて、バスが来た頃に行くと、自分の端末からバスに発信しますと、バスの運転手さんはそれを感知して、ルート内であればどこでも乗ったり降りたりすることができるという、非常に先駆的な事例を全町で取り組んでいます。

簡易型の端末機は、ある年齢以上であれば、全員無償で借りることができるそうです。発信、着信だけの端末なのですが、そういうところまたぜひ、県の方にもお話をしたので、富山県の方でも参考事例としてまたご検討いただいて、全県的な取組みと同時に、部分的にそういう地域を限定したような取組みもまた必要ではないかと思っております。

定刻の時間になりましたので、大変恐縮でございますが、まだまだ言い尽くせない委員の皆さまがたくさんおられると思います。ご意見等ございましたら事務局にお伝えいただければ、私の方にもその都度フィードバックしていただけますので、ぜひよろしくお願い申し上げます。

当日の議事、審議は以上として、司会にマイクをお返しします。

○閉会

○会議後いただいた意見

(大井委員より)

パークアンドライドについて、駅から遠いところに住む人が電車を利用しようとしても駐車場の確保できないために乗りたいくても乗れないケースがある。駐車場の確保をお願いしたいが、候補地については駅に近い所だけでなく、これまでより広い範囲（半径 500m程度でも可）も含めて検討してもらいたい。都市部では健康志向の高まりにより、あえて一駅分を歩く人もおり、潜在的な需要があるのではないかと。

バスロケについて、高齢者等にも配慮して、操作が簡単で表示が分かりやすいものにしてほしい。

観光情報の提供については、県内観光地の各地点の情報に加えて、地点と地点を結ぶモデルコースなどを提示してはどうか。